

Partial English Translation of  
Japanese Utility Model Laying-Open No. 62-134297

**SPECIFICATION**

1. Title of the Utility Model

Electric Wave Absorber

2. Scope of Claim for Utility Model Registration

An electric radio wave absorber, characterized in that a plurality of rectangular-shaped concave portions are formed at the surface of the electric wave absorber body, and that at least one notch is formed at a ridge connecting the concave portions.

... omitted ...

Japan Patent Office  
Utility Model Laying-Open Gazette

Utility Model Laying-Open No. 62-134297  
Date of Laying-Open: August 24, 1987  
International Class(es): H05K 9/00

( pages in all)

---

Title of the Invention: Electric Wave Absorber  
  
Utility Model Appln. No. 61-020120  
Filing Date: February 17, 1986  
Inventor(s):  
Masahiro KOSHITOUGE  
Keiichi TASHIRO  
Yoshihiro AOYANAGI  
Keiichi HASEGAWA  
  
Applicant(s): The Yokohama Rubber Co., Ltd.  
SHIMIZU CORPORATION

(transliterated, therefore the  
spelling might be incorrect)

# 公開実用 昭和62- 134297

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

## ⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭62- 134297

⑫ Int. Cl. 4

H 05 K 9/00

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)8月24日

M-8624-5F

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 電波吸収材

⑮ 実 頼 昭61-20120

⑯ 出 頼 昭61(1986)2月17日

⑰ 考案者 越 峰 雅 博 平塚市南原1-28-1

⑱ 考案者 田 代 啓 一 伊勢原市岡崎6699-8

⑲ 考案者 青 柳 嘉 宏 平塚市南原1-28-1

⑳ 考案者 長 谷 川 恵 一 平塚市徳延496

㉑ 出願人 横浜ゴム株式会社 東京都港区新橋5丁目36番11号

㉒ 出願人 清水建設株式会社 東京都中央区京橋二丁目16番1号

㉓ 代理人 弁理士 小川 信一 外2名

## 明細書

### 1. 考案の名称

電波吸収材

### 2. 実用新案登録請求の範囲

電波吸収材本体の表面に、複数の矩形状の凹部を形成し、この各凹部間を連接する峰部に、少なくとも一つ以上の切欠部を形成したことを特徴とする電波吸収材。

### 3. 考案の詳細な説明

#### (考案の技術分野)

この考案は、電波吸収材に係わり、更に詳しくは強度が高く、しかも電波吸収性能を良好にした電波吸収材に関するものである。

#### (考案の技術分野)

最近、電波暗室には低周波帯域の電波吸収材の使用が要求されており、従って電波暗室では、室内が広い自由空間となるようにできるだけ電波吸収性能のよい電波吸収材が使用されている。

ところで、従来の低周波帯域用の電波吸収材としては、例えば、第3図に示すように四角錐

1002

# 公開実用 昭和62-134297

状の突起1を表面に設けたものや、第4図に示すように波形の突起1aを表面に設けたもの等が知られている。そして、これらの電波吸収材の構成材料としては、例えば発泡ポリウレタン或いは発泡ポリスチロール等のプラスチック発泡体を母体とし、誘電性損失材料としてカーボンブラックやグラファイトを含有させている。

然しながら、このような従来電波吸収材は、上述のように四角錐状の突起1や波形の突起1aを表面に設けたものであるため、経時により突起部が傾いて電波吸収性能が劣化すると言う問題があった。

## 〔考案の目的〕

この考案は、かかる従来の問題点に着目して案出されたもので、その目的とするところは突起部の強度を高め、経時による傾きを有効に防止して電波吸収性能を向上させるようにした電波吸収材を提供するものである。

## 〔考案の構成〕

この考案は上記目的を達成するため、電波吸

1003

収材本体の表面に、複数の矩形状の凹部を形成し、この各凹部間を連接する峰部に、少なくとも一つ以上の切欠部を形成したことを要旨とするものである。

(考案の実施例)

以下添付図面に基いて、この考案の実施例を説明する。

第1図は、この考案を実施した電波吸収材の第1実施例を示す斜視図を示し、ベース10上に、カーボンブラックやグラファイト等の誘電性損失材料を含有した発泡ポリウレタン或いは発泡ポリスチロール等のプラスチック発泡体を母体とした電波吸収材11が載置されて構成されている。

なお、上記ベース10と電波吸収材11とを一体的に成形しても良い。

前記電波吸収材本体11の表面には、複数の矩形状の凹部12（この実施例では逆転四角錐状の凹部）が、互いに一辺を共通にして連続して網目状に設けられている。

そして、前記各凹部12間を連接する峰部13には、少なくとも一つ以上のV字状の切欠部14が形成され、この切欠部14の深さとしては、凹部12の深さの25%以下が望ましい。

なお、V字状の切欠部14の深さが深い場合には、峰部13の部分の強度が低下する現象を生じるものである。

また第2図は、この考案の第2実施例を示しこの実施例は、複数の矩形状の凹部12を連接する峰部13にV字状の二つの切欠部14a, 14bを形成したものである。

なお、V字状の二つの切欠部14a, 14bの深さは、上記第1実施例と同様に凹部12の深さの25%以下が望ましく、その他の構成は上記第1実施例と同様なので同一符号を付して説明は省略する。

〔効果〕

この考案は上記のように、電波吸収材本体の表面に、複数の矩形状の凹部を形成し、この各凹部間を連接する峰部に、少なくとも一つ以上

の切欠部を形成したため、突起部の強度を高め、経時による傾きを有効に防止して電波吸収性能を良好にすることが出来る効果があり、また表面に凹みを設けるだけでよいので、モールド成形し易く、このため加工上有利である。

#### 4. 図面の簡単な説明

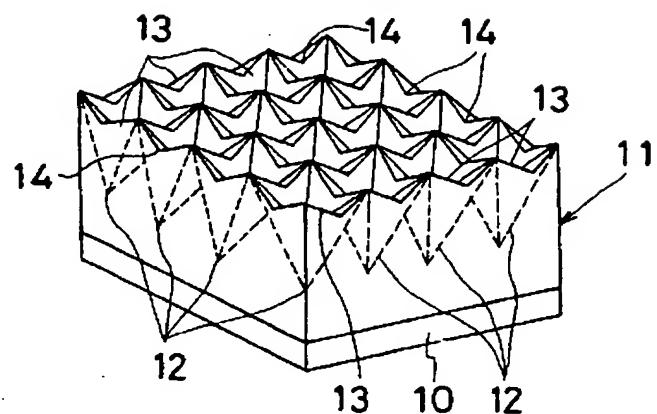
第1図はこの考案を実施した電波吸収材の第1実施例を示す斜視図、第2図は第1図の峰部の変形例を示す斜視図、第3図及び第4図は従来の電波吸収材の一例の斜視図である。

1 1 …電波吸収材本体、1 2 …凹部、1 3 …峰部、1 4 …切欠部。

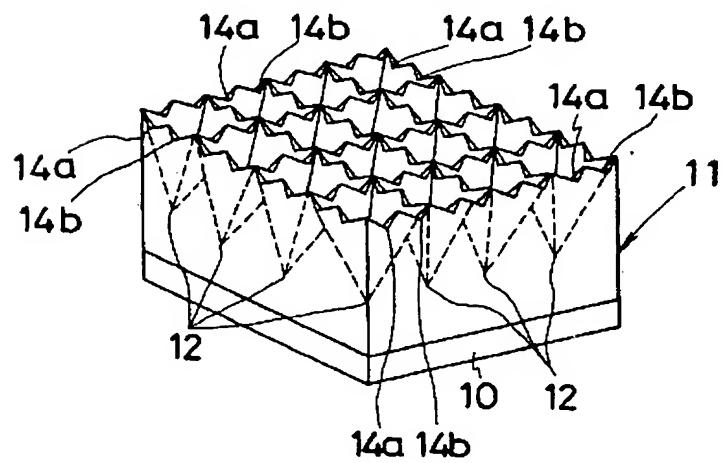
代理人 弁理士 小川信一  
弁理士 野口賢照  
弁理士 斎下和彦

1006

第1図



第2図



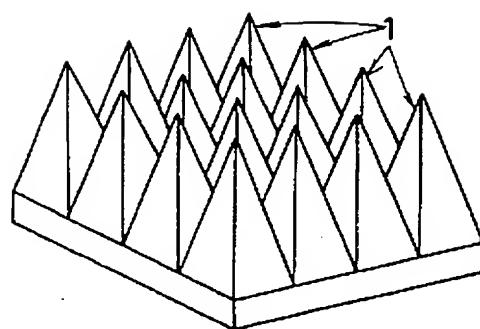
1007

代理人 助理士 小川信一

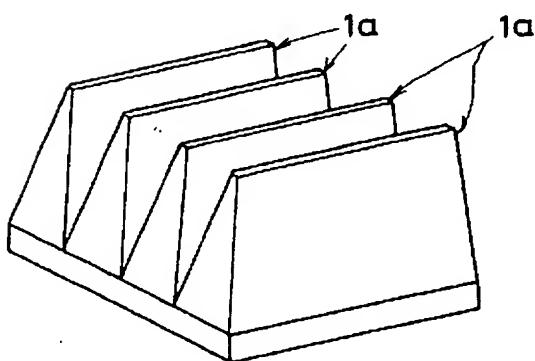
ほか2名

審査62-134297

第 3 図



第 4 図



1008

代理人 弁理士 小 川 信 一  
ほか 2 名

実用新案登録請求書